

【野菜部門 令和6年度 参考となる研究成果】

事項名	いちご品種「よつぼし」の県内における促成栽培の方法と収量性														
ねらい	現在、県内の主要品種は「とちおとめ」や「さちのか」であるが、収益性の高い品種への切り替えが望まれる。そこで、近年育成された「よつぼし」の県内における促成栽培の方法と収量性が明らかになったので参考に供する。														
内容	<p>1 プラグ苗鉢上げ時期及び定植時期の目安（図1左）</p> <table border="1" data-bbox="331 499 1453 734"> <thead> <tr> <th data-bbox="331 499 624 577">406穴プラグ苗の鉢上げ時期</th> <th data-bbox="632 499 911 577">定植前 花芽分化確認</th> <th data-bbox="919 499 1078 577">定植時期</th> <th data-bbox="1086 499 1453 577">留意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="331 589 624 656">～5月下旬</td> <td data-bbox="632 589 911 656">不要</td> <td data-bbox="919 589 1078 656">9月中旬</td> <td data-bbox="1086 589 1453 656">9月上旬に定植すると開花がばらつく</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 667 624 734">6月上旬～下旬</td> <td data-bbox="632 667 911 734">確認後速やかに定植</td> <td data-bbox="919 667 1078 734">9月中旬</td> <td data-bbox="1086 667 1453 734">花芽分化前に定植すると開花が遅れる</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 定植時のクラウン径 406穴プラグ苗鉢上げを6月下旬までに行った場合、9月中旬の定植時までクラウン径8mm以上を確保できる（図1右）。</p> <p>3 開花期及び収穫期 406穴プラグ苗鉢上げを6月下旬までに行った場合、平均開花日は10月下旬であり、平均収穫開始日は12月中旬である（表1）。</p> <p>4 収量性 (1)「よつぼし」は、全果収量3.8t/10a、商品果収量3.4t/10aで、「さちのか」、「とちおとめ」を大きく上回る（表2）。 (2)上記(1)と同等の収量並で11月から5月まで出荷した場合、販売金額は5,486,400円/10aである（表3）。</p>			406穴プラグ苗の鉢上げ時期	定植前 花芽分化確認	定植時期	留意事項	～5月下旬	不要	9月中旬	9月上旬に定植すると開花がばらつく	6月上旬～下旬	確認後速やかに定植	9月中旬	花芽分化前に定植すると開花が遅れる
406穴プラグ苗の鉢上げ時期	定植前 花芽分化確認	定植時期	留意事項												
～5月下旬	不要	9月中旬	9月上旬に定植すると開花がばらつく												
6月上旬～下旬	確認後速やかに定植	9月中旬	花芽分化前に定植すると開花が遅れる												
期待される効果	いちご促成栽培における安定生産に寄与する。														
利用上の注意事項	<p>1 種苗業者で播種された406穴プラグ苗を購入し、ハウス内の半旬別平均気温が7℃以下にならないように最低気温3℃設定で温度管理した土耕栽培での収量データである。</p> <p>2 種子繁殖型イチゴ研究会の「よつぼし」栽培技術の要点では定植時クラウン径8mm以上を推奨している。</p> <p>3 栽培年の気温により花芽分化、開花日、収穫開始日は異なり、高温年は花芽分化が遅れる。</p>														
問合せ先（電話番号）	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域のいちご作付経営体												
発表文献等	令和4年～5年度 農林総合研究所試験成績概要集 令和5年度 三八農業普及振興室調査研究結果概要書														

【根拠となった主要な試験結果】

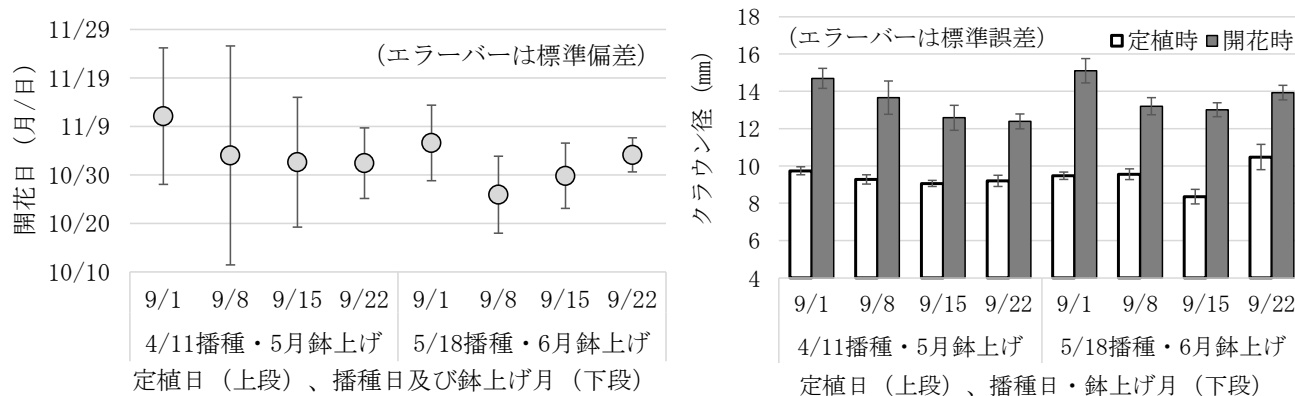


図1 「よつぼし」の開花日・クラウン径に及ぼす播種日と定植日の関係 (令和5年 青森農総研)
 (注) 播種は三好アグリテック社での播種日。

表1 「よつぼし」の播種・鉢上げ日と開花日及び収穫開始日 (令和4年 青森農総研)

播種日	鉢上げ日	開花日					収穫開始日					単収 (t/10a)	
		平均	最早	最晩	標準偏差	調査株数	平均	最早	最晩	標準偏差	調査株数	全果	商品果
3/28	5/12	10/28	10/15	11/15	11.3	7	12/11	11/18	1/17	19.2	8	4.3	3.8
4/28	6/10	10/28	10/11	11/16	13.5	8	12/15	11/18	1/24	24.0	8	4.5	4.0
5/24	6/29	11/2	10/28	11/13	4.2	8	12/16	12/8	1/4	7.6	8	5.0	4.3

(注) 1 三好アグリテック社で播種し、406穴プラグ苗鉢上げを農林総合研究所で行った。
 2 花芽分化確認後の9月19日に定植、半旬別平均気温が7℃を下回らないように最低気温3℃設定、最低地温13℃に制御した土耕栽培での収量データ。

表2 土耕栽培における各品種の収量性 (令和4年 青森農総研)

品種		月別の収量 (g/株)								合計 (g/株)	単収 (t/10a)
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
よつぼし	全果	3	27	24	62	118	185	149	67	634	3.8
	商品果	3	26	24	58	105	170	135	57	577	3.4
さちのか	全果	-	-	5	16	55	166	177	23	442	2.6
	商品果	-	-	5	11	28	145	137	22	347	2.1
とちおとめ	全果	-	23	43	13	16	46	145	106	392	2.3
	商品果	-	22	42	9	7	36	126	100	344	2.0

(注) 1 「よつぼし」は三好アグリテック社で播種し、406穴プラグ苗鉢上げを農林総合研究所で行った。
 2 半旬別平均気温が7℃を下回らないように最低気温3℃設定での収量データ。

表3 八戸地域の「よつぼし」生産者の収量と販売金額 (令和4年 三八農業普及振興室)

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	栽植本数 (株/10a)	単収 (t/10a)	販売金額 (円/10a)
果実販売単価(円/kg)	2,046	2,164	1,913	1,597	1,636	1,286	1,244				
自家増殖ランナー苗 商品果収量(g/株)	-	-	-	92	264	309	92	758	4,513	3.4	4,928,196
販売金額(円/株)	-	-	-	147	432	398	115	1,092			
種子繁殖プラグ苗 商品果収量(g/株)	9	31	47	112	183	164	124	669	5,400	3.6	5,486,400
販売金額(円/株)	17	67	89	179	299	211	154	1,016			

(注) 販売単価はいちご生産者の取引実績に基づいた価格。

耕種概要

1 農林総合研究所（表2の耕種概要）

調査場所：農林総合研究所（黒石市）

品種：「よつぼし」、「さちのか」、「とちおとめ」

栽植様式：土耕栽培、株間 25cm、条間 15cm、2条千鳥植え、うね幅 135cm、株数 5,925 株/10a、芽数放任

土壌改良資材：M-10 100 kg/10a、苦土重焼燐 100 kg/10a

施肥管理：大塚タンクミックス F&B、窒素施用量 15mg/株/日を目安に管理。

灌水方法：点滴灌水同時施肥、灌水量 0~800mL/株/日、灌水開始は pF1.7 程度を目安。

温度管理：最低気温 3℃に設定して温風加温、内張りカーテン 1 層、電照なし。

育苗：「よつぼし」は 4 月 28 日に三好アグリテック社で播種し、406 穴プラグ苗を 6 月 10 日にすくすくトレイ 24 穴へ鉢上げ。その他品種は 7 月 29 日にすくすくカップ 24 穴でランナー採苗し 8 月 15 日に切り離し。花芽分化処理なし、検鏡により花芽分化確認後の令和 4 年 9 月 19 日に定植。

面積区制：8 株 1 反復もしくは 2 反復。

2 三八農業普及振興室（表3の耕種概要）

調査場所：いちご生産者圃場（八戸市市川町）

育苗方法：自家増殖はパイプハウスで親株（R 3 年購入）から発生したランナーを令和 4 年 6 月末から順次 9cm ポットに鉢受けし、8 月末に切り離し。種子繁殖は 406 穴プラグ苗を購入し、令和 4 年 6 月 10 日に 9cm ポットに鉢上げし、パイプハウスで育苗。培地は黒土にポット錠ジャンプ p25（6-25-3）を 9cm ポット当たり 1 錠混和し、その後は葉色を見ながらトミー液肥（ブラック）（10-4-6）で適宜追肥。定植前花芽分化処理なし。

栽植様式：土耕栽培。自家増殖は、畝幅 110cm、株間 30cm、条間 15cm、2 条植え、6,061 株/10a。種子繁殖は、畝幅 110cm×株間 24cm、条間 20cm、2 条植え、7,576 株/10a。

温度管理：保温は 12~5 月にハウス内が 5℃以下となる日に 2 重カーテン及びトンネル被覆し、屋外が -5℃以下となる日に夜間簡易暖房による加温を実施。

電照期間：日長 13.5 時間を目途に夕方から白熱電球で実施。自家増殖は、令和 4 年 12 月 1 日~令和 5 年 2 月 18 日。種子繁殖は、令和 4 年 11 月 1 日~令和 5 年 2 月 28 日。

CO₂施用：自家増殖は施用なし。種子繁殖は施用濃度 500~800ppm を目安として、令和 4 年 11 月 1 日~令和 5 年 5 月 31 日に実施。

土壌改良資材：アヅミン 82kg/10a

施肥：基肥は有機アグレット 666 号（6-6-6）82kg/10a。追肥は 3 月以降にトミー液肥ブラック（10-4-6）を実施。

面積区制：67 坪及び 75 坪パイプハウス各 1 棟。

